

### 3. FD プログラムの開発

#### 1) 概要

アクティブ・ラーニングを普及させるための効果的な FD プログラムの開発に向けて、平成 27 年度から「Learning, Education, Development (LED) カフェ」と題した FD を試行している。参加者の自由な意見交換を通じて、Learning, Education, Development の輪を広げる、「サイエンスカフェ」をモデルにした取組であり、平成 28 年度は「ルーブリックを学ぼう」を統一テーマとして設定し、計 5 回開催した。以下では、その実施概要について報告を行う。

#### 2) 背景

全学的なアクティブ・ラーニングの普及という実質的な成果につなげるためには、セミナー型よりもワークショップ型の FD プログラムがより有効と言われている。しかし、一般的に、ワークショップ型のプログラムは、教員にとって負荷が大きく感じられ、参加者数が頭打ちになるという課題を抱えている。そこで、こうした課題を解消するため、持続可能かつ気楽に参加できる FD プログラムの一つとして、参加者の自由な意見交換を基調とするプログラムを実施した。

統一テーマに据えた「ルーブリック」は、学生の学習成果を評価するためのツールの一つであり、授業で評価したい観点と尺度（レベル）を表の形式で示すことで評価基準を明確化することができる。初年次教育「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」では、ルーブリックの使用を推奨しており、LED カフェでは、専門教育も含めた授業でルーブリックをどのように活用しているか参加者間で情報共有し、日頃の教育実践につなげることを目指した。

#### 3) 実施方法

LED カフェは毎回、60 分を基本として実施した。実施にあたっては、総合教育センター教育改革推進部門の教員が、冒頭の 10 分～20 分程度、話題提供・報告者を務めた。この話題提供を踏まえて、その後の約 40～50 分間、参加者間の自由な意見交換を行うこととした。各回のテーマは、以下の表の通りである。

回数	実施日	テーマ
第 1 回	平成 28 年 7 月 4 日（月）17：00～18：00 蔵本	ルーブリックを用いた評価の基本
	平成 28 年 7 月 5 日（火）16：30～17：30 常三島	
第 2 回	平成 28 年 10 月 3 日（月）17：00～18：00 蔵本	〇〇をルーブリックで評価する
	平成 28 年 10 月 4 日（火）16：30～17：30 常三島	
第 3 回	平成 28 年 12 月 7 日（水）17：00～18：00 蔵本	ルーブリックのつくり方
第 4 回	平成 28 年 12 月 9 日（金）16：30～17：45 常三島	KJ 法再考（前編）：『発想法』で学ぶグループワークの基礎
第 5 回	平成 29 年 1 月 20 日（金）16：30～17：45 常三島	KJ 法再考（後編）：『発想法』で学ぶグループワークの基礎

本プログラムの実施にあたってモデルとしたサイエンスカフェにおいては、意見交換しやすい、和やかな雰囲気づくりが鍵とも言われている。本プログラムにおいても、常三島キャンパスで開催する際には、附属図書館本館に設置されている飲食可能スペースの「カフェテリア」を活用し、簡単な菓子や飲み物を参加者が持ち寄る仕組みとすることで、意見交換しやすい場の醸成を目指した。

#### 4) 各回の概要と課題

第1回のテーマは、「ルーブリックを用いた評価の基本」とし、ルーブリックとは何か、ルーブリックを用いて評価を行う際の基本的な内容を紹介した後で、具体的な活用方法について議論を行った。(右の写真は、第1回 LED カフェ [常三島]の様子)。

第2回「〇〇をルーブリックで評価する」では、ルーブリックの参考例を配布した上で、各参加者に授業でのルーブリックの使用状況を報告頂き、意見交換を行った。

第3回「ルーブリックの作り方」では、総合教育センター教育改革推進部門の川野卓二教授が話題提供を行った。ルーブリックの作成方法の説明とともに、これから使用する予定のルーブリックを紹介し、どのようなルーブリックをどのように用いたらよいかについて、参加者と議論を行った。参加者からも授業で使用したルーブリックの提供と説明があり、ルーブリックおよびその活用方法の多様性について認識を深められる機会ともなった(下の写真は、第3回 LED カフェ [蔵本]の様子)。



第4回「KJ法再考(前編):『発想法』で学ぶグループワークの基礎」は、グループワークの際に「KJ法」を用いた学生のパフォーマンスを評価する際には、「KJ法」の正確な理解を踏まえる必要があるため、その機会となるよう設定したテーマである。川喜田二郎著『発想法』の第1章～第3章について、3名が分担で概要を報告し、内容について議論を行った。

第5回「KJ法再考(後編):『発想法』で学ぶグループワークの基礎」では、川喜田二郎著『発想法』の第4章～第6章について、2名が分担で報告を行い、内容について議論を行った。

今年度は、テーマをルーブリックに設定して開催したが、ルーブリックは様々な評価手法のうちの一つであり、必ずしも全ての授業で導入しなければならないというわけではない。年度のテーマをより広く設定し、各回のテーマにバリエーションをもたせた方が参加者の間口を広げることにつながったのではないかと考えられる。適切なテーマ設定は、今後の課題と言える。